

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

学校番号	17	学校名	日川高校		
全・定・通	全	学年	3	在籍生徒数	193 名
教育目標 (学力に関するもの)		学習目標を明確化し、指導と評価の一体化に努め授業力の向上を図る。ICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びを目指す。			
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力		文・武両道を実践する意思を持ち、向上心を持って努力できる生徒 ・知的好奇心が旺盛で、主体的に考え、行動できる生徒 ・目標を持ち、実現に向けてつむきに努力できる生徒 ☆ 身に付けるべき資質・能力 主体性、協働性、粘り強さ・思考力、判断力、表現力、自己分析力、課題解決力・自己管理能力、情報活用力、コミュニケーション力			
各教科の取組					
教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題	
国語	【知識及び技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、言語に対する理解を深め適切に使うことができる。	4. 1	4. 4	語彙の獲得や、古典分野の文法などの知識・技能の習得に課題が残る。漢字については継続的蓄積が必要と思われる。情報収集力は基礎的な部分で向上が見られた。	
	【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力や物事に想像力を養い、伝え合う力を高める中で自分の考えを発展させることができる。	4. 2	4. 4	他者の意見の考察、また自らの意見をまとめる能力の養成に継続して取り組んできたが、進路に関わっての自己の考えをどう表現するかという取り組みに一定の成果が見られたもの、授業内で伝え合う力をどう高めるか、工夫が必要である。	
	【学びに向かう力、人間性等】言語意識を養い、我が国や世界の文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたる国語を尊重してその能力の向上を図ることができる。	4. 2	4. 4	BYODを活用することで、グループワークや意見交換、また意見の表現の機会や手法が広がった。問題解決のために主体的に学習する姿勢を育てていく。	
	【知識及び技能】歴史上の諸事象、および現代の諸課題について理解を深めるとともに、資料を比較検討して必要な情報を調べ適切に用いることができる。	4. 2	4. 4	教科科目に対する専門的な知識の習得について、生徒の興味関心の程度に応じて大きく差が見られた。次年度は、基礎的事項のさらなる定着を意識した授業構成を検討していきたい。	
地公	【思考力、判断力、表現力等】歴史上の諸事象、および現代の諸課題について、多面的・多角的に考察を深め、合理的に判断し、発展的に表現することができる。	4. 2	4. 3	教科科目で習得した知識・技能について、一定程度の思考や判断の様子は確認できたが、様々な方法を用いての表現については難色を示す生徒も多かったため、表現について工夫を重ねていきたい。	
	【学びに向かう力、人間性等】民主社会に生きる人間の在り方・生き方について、自らの問題として主体的に思考を重ねることができる。	4. 2	4. 7	年間を通して、一部の生徒は学習に意欲的になる姿勢が見られたが、多くの生徒は教科科目の内容に応じ意欲に差が見られたため、生徒の興味関心を引き出す視点を今後も検討していきたい。	
	【知識及び技能】事象を数値化した、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理し、問題を多面的に考察することができる。	4	4. 2	事象の数学化や数学的な解釈をする姿勢はあるものの、表現・処理や多面的な考察力の習得は十分ではない。生徒の態度を大切に、多くの事象について取り組んでいく。	
	【思考力、判断力、表現力等】数や式を目的に応じて適切に変形できる。関数関係を着目し、事象を的確に表現し、言語化することができる。	3. 9	4. 1	問題を解いていく上で、数式の意味を解釈し適切な変形が思い付けるよう、図や表、グラフを描いて解決の糸口を探せるよう、具体的な問題を通して指導していきたい。	
数学	【学びに向かう力、人間性等】問題解決の過程を振り返って考察を深め、身の回りの現象を数学的に考えることができる。	4. 4	4. 2	身の回りの現象に興味関心を持つことはできるが、それを数学的に考えることについては課題が残る。BYODの効果的な利用方法や充実したグループワークのやり方、学びの振り返りツール等を研究し教科内で共有していきたい。	
	【知識及び技能】自然の事象・現象について科学的に探究するために必要な知識及び技能を身に付け活用することができる。	4. 1	4. 3	探究するための知識はみにつけることができたが、技能は分野によっては十分であるのがあった。探究活動を行う回数改善を行いたい。	
	【思考力、判断力、表現力等】自然の事象・現象から生じる課題に対し、科学的・批判的に思考を深め、発展的に表現することができる。	4. 1	4. 3	課題に対して、グループ対話を通して科学的・批判的に考えようことができた。しかし、発展的に表現するところが不十分であったので、発展的に表現できるような指導の改善を行いたい。	
	【学びに向かう力、人間性等】自然の事象・現象に対し、課題を主体的に探究を行う中で、自己の科学的課題解決能力に活かそうとすることができる。	4. 1	4. 3	個々が主体性をもって、探究できた。しかし、課題解決までは至らなかったことが多くと考えるためで、課題解決を目指した態度の育成を目指したい。	
理科	【知識及び技能】言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法、を実際のコミュニケーションの場面において活用できる。	4. 2	4. 3	基本的な語彙や表現の活用に関しては、特にリスニングにおいて習得した成果を実感できた。語彙、構文の積み上げが不十分であるためにまとまった量の英文を読破することが困難になる場面があるため、年次を通しての課題とし	
	【思考力、判断力、表現力等】目的・場面・状況に応じて、社会や世界、他者（他者の心の中）の場面に、意図について、情報や考えなどの要素・意味・感情などを正確に理解したり、その様子を的確に表現し伝えあうことができる。	4. 3	4. 3	様々なテーマの英文を読破を進める中で、他教科で得た知識や社会的経験の総動員が活かせるようになった。視覚的な情報と文章による情報を整理する、思考力を高める読解に課題が残った。語彙習得と並行して様々な形式の英文に取組みたい。	
	【学びに向かう力、人間性等】文化の多様性を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションをとることができる。	4. 2	4. 3	自分の考えや経験を英語で書く活動を通して、全体構成や言葉の運びなどを熟慮しながら他者に伝えることができるようになった。伝えたいことにまぐれがいっぺんか「世間たる思いを」を込めた経験が学びに向かう主体性へつな	
英語					
芸術					
家庭	【知識及び技能】家庭基礎・子どもたちと検定を通して、より実践的な食生活や「学」などの特性について理解し、それらにかかわる技能を身に付ける。	3. 8	4. 4	検定においては全員が合格することによって成果は出せた。また、実習を多く取り入れることで技能はある程度身につけたが、それを実生活に落とし込めてい	
	【思考力、判断力、表現力等】実習や生活の中から問題を見いだして、解決策を構想し、根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	3. 9	4. 3	根拠に基づいて論理的に表現する点がまだ欠けているので、発表の機会を増やし、相互評価をすることで高めていきたい。	
	【学びに向かう力、人間性等】実習を通してさまざまな人々と協働し、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を身に付ける。	4. 4	4. 3	主体的に創造しようとする点において足りていない面があるので、BYOD、グループワークなどを活用し、実習以外にも考えさせたり話し合いを促せる場面を増やしていきたい。	
	【知識及び技能】知識を踏まえて、運動の実践により成果を発揮したり、身体表現できる技能を身に付ける。	4. 5	4. 5	それぞれ各自が選択した種目に対して積極的に取り組むことができた。レベル別や男女一緒に行うなど交流の場を増やしていきたい。	
保体	【思考力、判断力、表現力等】思考・判断したことを、根拠を示し表現したり他者に配慮したりして、相手に伝えたり表現したりする力を身に付ける。	4. 5	4. 5	個のレベルアップの点、振り返りすることはもちろんのこと、集団として仲間や相手にも互いに教えあう環境づくりが必要である。	
	【学びに向かう力、人間性等】スポーツなどの様々な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践することのできる態度を身に付ける。	4. 5	4. 5	自ら生涯にわたってスポーツを継続できる種目を選択し、よりよい環境を作りだせるように状況に応じて対応する能力を身に付ける。	

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報	【知識及び技能】問題の発見・解決のために、情報収集やデータを適切に扱う事ができ、それらを複合的に活用できる。	4.3	4.4	自分の興味関心に合わせてデータサイエンスなどに取組ませたことで、積極的に学ぶ姿勢が見られた。データ分析の基礎知識身に付けることができたが、より実践的な活動や、SSHの活動に繋がるように工夫をしていきたい。
	【思考力、判断力、表現力等】データや事象をもとに論理的に問題を考えて判断する力。ソフトウェアや情報技術を活用し伝達できる表現力を身に付けることができる。	4.3	4.4	データサイエンスでは問題の発見・解決に対して力を高められるように実習形式で取り組んだ。主体的かつ協働的にデータに向き合うことで、データを分析したり、データに基づく考察など思考力を高められた。
	【学びに向かう力、人間性等】ICリテラシーの必要性を理解し、実社会における自らの情報活用などを振り返ることができ、より発展的かつ主体的に参画することができる。	4.3	4.4	基本的なタイピングの操作、データサイエンスやプログラミングへの理解を高められるよう課題等で対応していきたい。社会問題となっている離れバイトなどの情報モラルやリテラシーなどへの関心をより高めたい。
総探	【知識及び技能】関心のある分野について正しく理解し、課題発見のための知識や技術を身につけている。	—	4.4	新たな実験や独自の視点から取り組み、研究を深化させた生徒もいる一方で、分野によっては調査に留まり、探究活動に発展させることが困難な生徒もいた。内容によっては個別指導の必要性を感じた。
	【思考・判断・表現】課題発見や設定において、必要な情報を収集整理し発表できる。	—	4.4	過去の文献やインターネット上の情報から調査し理解した内容や、課題解決に向けた実験結果から考察し、論文にまとめ、発表することができた。
	【主体的に学習に取り組む態度】自分や社会生活の発展のために進んで探究活動に取り組むことができる。	—	4.4	各自が興味関心のある課題設定をしたため、主体的に学習に取り組む態度は概ねできていた。また、発表の機会をおとし、他者からの助言を傾聴し、論文を深化させる姿勢を多くの生徒が見せていた。

「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで)		R6中間	R6期末
授業の始めに授業の目標を確認することができた ①強くそう思う, ②そう思う		84.9%	83.3%
話し合い, 討論, 発表などの言語活動に取り組むことができた ①強くそう思う, ②そう思う		95.7%	97.8%
他の人の話や発表に耳を傾けることができた ①強くそう思う, ②そう思う		94.6%	93.5%
ノート等で授業の記録することができた ①強くそう思う, ②そう思う		94.1%	92.5%
活用・探究など, 学んだことを別の場面で使うことができた ①強くそう思う, ②そう思う		89.7%	91.9%
授業や単元の終わりに, 目標を達成しているかを評価することができた ①強くそう思う, ②そう思う		86.5%	85.5%
家庭学習(宿題や課題)と授業を, 有機的に結び付けすることができた ①強くそう思う, ②そう思う		87.0%	90.9%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた ①強くそう思う, ②そう思う		91.4%	92.5%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)

生徒の家庭での学習状況や教員の学習指導にかかわるアンケートでは、「達成されている」「ほぼ達成されている」が合わせて割合に上っていた。学習に関する生徒自身のアンケート結果も昨年時よりも高評価が増加した。SSHや国際交流が生徒の進路決定や学力の伸長にもよい効果をもたらしていると考えられる。部活動との両立への不安が昨年度には見られたが、部活動引退後の生徒の学習への集中力・学力の伸長がうかがえた。

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)

新教育課程の一期生としてこれまでの実践をふまえ3観点を意識した授業と評価を行い、教員間で情報を共有しつづ改善を図った。これまで同様にほとんどの教科で生徒の自己評価は1.0を超えていた。授業アンケートでも、全ての質問項目で高評価が8割を超えており、生徒自身も学習に対し肯定的な姿勢で臨んでいることがうかがえた。ただし、学習の基礎診断の結果から、A・B層と目標を把握とできず、共通テストにおいても一定の成果を得ることができた。今後も生徒の進路実現のため生徒の状況の把握と指導の改善を行っていく。